

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2023年 助成団体活動成果レポート

コミュニティアクション部門

最優秀賞

特定非営利活動法人 あおり若者プロジェクト クリエイト

青森県青森市

プロジェクト名

まちづくりを通じた学びのプログラム「クリエイトまち塾」の展開

■地域の課題

本プロジェクトでは、地域商店街の衰退及び人口減少という2つの地域課題の解決に取り組みました。

■当団体の紹介

地元高校生を対象とした通年型社会教育プログラム「クリエイトまち塾」を実施。商店街を学校に見立て、店主・地元学生・高校生が一体となり、1年をかけてまちづくり活動に取り組むことで、若年層の地域への愛着を高め、人口流出速度の緩和に貢献するとともに、未来を担う有為な人材の育成を目指しています。





プロジェクトの概要

■背景・目的は？

大型SCが台頭する現代において、現状の商店街のビジネスモデルが通用せず、商いの場から学びの場への変化が求められていると考えました。また、最初の流出タイミングである高校卒業までに地域について深く学ぶ機会が少ないことから、地元を離れる前の高校時代に地域への理解を深めることも、人口流出速度を緩和するうえで重要ではないかと考えました。このような背景から、「商いの場」である商店街に「学びの場」の機能を付加することを目的として、クリエイトまち塾を展開しました。

■具体的な活動は？

【活動実施期間】

2023年11月～2024年3月、2024年6月～11月

【活動テーマ】

2023年

- ・11月26日：青森市中心市街地のまちづくり活動を学ぼう
- ・12月16日：若者主体のまちづくり活動を学ぼう

2024年

- ・1月27日：自分たちの手でまちづくり活動を実践しよう
- ・2月23日：これからの青森市中心市街地の姿を考えよう
- ・3月16日：1年間の学びを振り、地域に発信しよう
- ・6月22日：青森市中心市街地のまちづくり活動を学ぼう
- ・7月15日：ウォーターフロントエリアの資源を学ぼう
- ・8月25日：伝えるコツを学ぼう
- ・9月16日：まちの未来を考えよう
- ・10月14日：他の地域のまちづくりから学ぼう
- ・11月9日：まちづくりの第一線で活躍している人から学ぼう

【参加者数】

青森県内高校生 延べ46名

(2023年度:青森県内の高校生18名、2024年度:青森県内の高校生28名)

【メディア掲載状況】

- ・青森ケーブルテレビ ACTタイム(2023年12月)：「東北電力が助成金50万円を贈呈」
- ・東奥日報(2023年12月2日)：「東北電が『まち塾』に助成金贈呈」
- ・東奥日報(2024年2月28日)：「規格外リンゴ スムージーに」
- ・NTT Sustainable Smart City Partner Program(2024年3月28日)：「青森の『クリエイト』高校生×商店街のまちづくり(前編・後編)」
- ・東奥日報(2024年3月26日)：「新しいまちづくり 高校生が企画・提案」
- ・月刊先端教育 2024年5月号：「商店街をフィールドに実践と講義を通じまちづくりを学ぶ高校生向けプログラム」
- ・毎日新聞 福島県版(2024年5月7日)：「空洞化する福島／4止 中心市街地、どう活性化『地域らしさ』が大切 郊外大型店とは違う魅力」



講義風景 NPO法人わかもののみち
土肥潤也代表理事



講義風景 西秀記青森市長



講義風景 あおもり若者プロジェクトクリエイト
久保田圭祐理事長



講義風景 みなとまち・あおもり誕生400年実行委員会
細川英邦運営委員長

■活動の成果は？

青森市のみならず、平内町・野辺地町・八戸市など広域から延べ46人の参加があり、全11回のコアプログラム（講演会）を実施しました。2024年3月に商店街中心部に位置するアウガで開催した成果発表会には、80名を超える地域住民が来場し、商店街に「学びの機能を付加する」という大きな目的の緒に就くことができたと考えています。

2023年度参加高校生の声（抜粋）

「クリエイトまち塾を通して青森の魅力を再発見でき、もし進学で他県に行ったとしても戻ってきたいと思える経験でした。また、活動を通して自分の進路を明確にすることができたので、この活動を活かして自分の強みとなる部分を見つけ、第1志望校に合格したいと思いました。」

「クリエイトまち塾では、悔しかったこと、辛かったこと、楽しかったことなど、いろいろな経験ができました。ただ、その中で成長できた部分よりも、自分の悪い部分を実感することの方が多かったのがとても悔しかったです。この悔しいという思いや、クリエイトまち塾で学んだことを無駄にせず、将来に活かすことがこれからの自分の課題だと思いました。」

中長期の方針として、スタッフの成長にもつなげることを目指しており、その第一弾として本助成金を活用し、スタッフの人材育成にも取り組みました。具体的には、ワークショップのファシリテーション能力向上に資する書籍購入、OJTプログラムの検討、スタッフ向け研修の提供などを行い、いずれもスタッフの能力・モチベーション向上につながりました。スタッフの能力やモチベーションが向上することは、カリキュラムのクオリティ向上にもつながると考えています。

通常の助成金では、事業本来の対象者である「高校生」に向けた取り組みしか工面しにくいところ、本事業の本質である「人材育成」の観点からフレキシブルに助成金を活用できたことは、事業のステップアップに大いに役立ったと感じています。



高校生による実践活動



成果発表会



大学生・若手社会人向けスタッフ研修



ワークショップ

団体からのコメント

クリエイトまち塾は、2024年度に10年目を迎えました。延べ260名の地元高校生が参画し、彼らに成長の機会を提供してきました。今後も、魅力的かつ実践的なカリキュラムを考案し、地域人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。また、スタッフとして活動を支援している大学生や若手社会人に対しても、研修などのフォローを充実させ、参加者・運営者・支援者が三方良しとなる活動を展開したいと考えています。

現在、安定財源の確保とスタッフの人材育成について課題があると考えています。前者については、地元企業からの協賛や個人サポーター会員制度などの整備を進めるとともに、個人向けのクラウドファンディングにも取り組むことで、補助金などに依存しない形で事業実施に必要な資金を確保したいと考えています。後者については、今回の助成期間中に実施した研修やメンタープログラムをもとに、さらに充実させる取り組みを進めていきます。

これまで、クリエイトまち塾は「地元高校生の人材育成」に力点を置いてきました。しかし、助成期間中にスタッフへの投資にも積極的に取り組んだ結果、スタッフのモチベーション向上につながり、彼らの成長にも大いに貢献することができました。今後は、スタッフを含めた地域の若者全体の人材育成へと裾野を広げ、取り組みをさらに充実させていきたいと考えています。また、東北全体の人材育成の観点から、青森県外への「クリエイトまち塾」の展開についても積極的に取り組んでいきます。